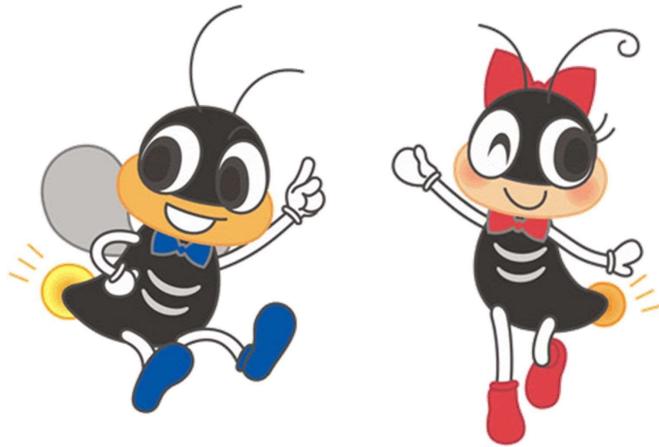


概要版

## 令和元年度 京都市上下水道事業

# 経営評価

[平成 30 年度事業]



# 2018

京都市上下水道局



京都市上下水道局  
マスコットキャラクター  
ホタルの遊戯(すも)くん

### 3つの視点に基づく各取組の状況と評価

「京（みやこ）の水ビジョン-あすをつくる-（2018-2027）」及び「中期経営プラン（2018-2022）」では基本理念「京（きょう）の水からあすをつくる」に基づき、「3つの視点」と9つの方針を掲げ、これらの下、30の取組を体系的に構成しています。



京都市上下水道局  
マスコットキャラクター  
ホタルのひかりちゃん

#### 視点① 京の水をみらいへつなぐ

- 水道事業では、水質管理の取組として水道水質検査優良試験所規範「水道 GLP」の認定更新を受けるとともに、**水安全計画の適正な運用**を図りました。また、**老朽化した水道管路や浄水場の基幹施設（配水池など）の改築更新・地震対策**を推進しました。
- 公共下水道事業では、**老朽化した下水道管路や水環境保全センターの主要施設の改築更新・地震対策**を進めるとともに、水環境対策として**合流式下水道の改善**を実施しました。
- 防災・減災対策として、「南北2箇所の事業・防災拠点」の実現に向けた**南部拠点整備事業**を進めるとともに、**防災・減災のための装備等（給水車の拡充や災害用マンホールトイレの整備等）**を強化しました。また、「雨に強いまちづくり」に向けて、**雨水幹線の整備等**を引き続き進めました。

⇒これらの結果、**18の取組項目に対する評価は、A評価が12、B評価が6**となりました。また、数値目標については、浄水場の工事で発注遅延等により工事が遅れ「**配水池の耐震化率**」は**目標に届きませんでした**が、**その他の11項目は目標達成**となりました。

#### 視点② 京の水でこころをはぐくむ

- お客さまサービス向上の取組として、**インターネット等を活用した新たなお客さまサービス**（過去の水道使用水量等をインターネットで確認できるサービス「みずみるネット」等）を開始しました。また、**戦略的な広報（ミスト事業、お風呂の魅力・効率を啓発するイベント等）**を実施し、事業の果たす役割や意義などを積極的に発信しました。
- 文化・景観に関する取組として、明治150年関連事業と連携しながら、**疏水通船事業の運営支援**や開館30周年に合わせた**琵琶湖疏水記念館のリニューアル**を実施しました。
- 創エネルギー対策の実施として、**大規模太陽光発電設備による再生可能エネルギーの継続的な利用**を図るとともに、下水汚泥の有効利用の促進を目的とした**固形燃料化施設（鳥羽水環境保全センター内）の整備**に着手しました。

⇒これらの結果、**6つの取組項目に対する評価はすべてA評価**となり、また**6つの数値目標はいずれも目標達成**となりました。

#### 視点③ 京の水をささえつづける

- 技術継承の取組として、**若手職員の技術力向上**を目的とした「**専門技術研修**」を開始するとともに、水道技術研修施設（平成30年4月運用開始）において研修（全100回以上）を実施しました。
- 経営基盤強化に向けた取組として、**組織・業務の見直しや民間活力の導入等の効率的な事業運営**を図るとともに、財務体質の更なる強化に向けて**企業債残高の削減**や**保有資産の有効活用**を進めました。

⇒これらの結果、**6つの取組項目に対する評価はすべてA評価**となり、また**3つの数値目標はいずれも目標達成**となりました。

京都市上下水道局 経営戦略室

〒601-8004 京都市南区東九条東山王町12番地

TEL 075-672-3114 FAX 075-682-0289

<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/>

# 平成 30（2018）年度の事業推進の状況

平成 30 年度は、水需要の減少等の厳しい経営環境の中、新たな経営戦略「京（みやこ）の水ビジョンーあすをつくるー」及び「中期経営プラン（2018-2022）」の初年度として、各取組を概ね順調に推進しました。

ここでは、主な数値目標等の進捗状況についてご紹介します。

## 方針① つくる 100 パーセント 異臭（かび臭）のない水達成率

24 時間監視やきめ細やかな水質検査を継続実施し、水質管理を徹底しました。

数値目標：異臭（かび臭）のない水達成率

2018 年度実績/目標 <b>100% / 100%</b>	2022 年度目標 <b>100%</b>
------------------------------------	--------------------------



水質監視装置 監視画面



**水源から蛇口までの水質管理を徹底しています**  
水質検査の精度と信頼性を保証する「水道 GLP」の認定更新を受けました。これからも一層安心して使用していただける水道水の供給に努めます。

方針② はこぶ

## 52.8 キロメートル 水道配水管の更新・耐震化の年間実施延長



水道配水管の布設替工事

## 33 キロメートル 下水道管路の調査及び改築・地震対策の年間実施延長

老朽化した水道配水管の更新・耐震化を実施し、年間の更新率を 1.3% に引き上げました。また、下水道の管路内調査を計画的に進め、健全度の低下や破損状況等、優先度を踏まえた改築更新・耐震化を進めました。

数値目標：老朽配水管の解消率

2018 年度実績/目標 <b>27.1% / 27.1%</b>	2022 年度目標 <b>47.0%</b>
--------------------------------------	---------------------------

数値目標：下水道管路改築・地震対策率

2018 年度実績/目標 <b>14.8% / 14.8%</b>	2022 年度目標 <b>28%</b>
--------------------------------------	-------------------------



下水道管更生の施工状況



**管路・施設の老朽化対策・地震対策を推進しています**  
水道・下水道ともに管路・施設の老朽化が進んでいく中、皆さまに安心してご利用いただけるよう、計画的に老朽化対策を進めています。

# HIGHLIGHTS

	数値目標の達成状況		取組項目の達成状況				
	達成	未達成	A (100%以上)	B (99~80%)	C (79~50%)	D (49~30%)	E (29%以下)
視点①	11	1	12	6	-	-	-
視点②	6	-	6	-	-	-	-
視点③	3	-	6	-	-	-	-

プランに記載の数値目標のうち当年度における目標数値が設定されていない項目を除く。

## 方針③ まもる 28.6 パーセント

### 10 年確率降雨に対応した雨水整備率

大雨の時に雨水を取り込む雨水幹線等の整備を進め、雨水整備率の目標数値を達成しました。

数値目標：雨水整備率（10 年確率降雨（62mm/h）対応）

2018 年度実績/目標 <b>28.6% / 28.6%</b>	2022 年度目標 <b>33%</b>
--------------------------------------	-------------------------



施工中の雨水幹線の内部



**市民・事業者の皆さまとともに「雨に強いまちづくり」を進めます**  
**5 年確率降雨（52mm/h）対応では全国トップクラスとなる 9.1%！**  
雨水貯留施設・雨水浸透ますの普及促進等も図りながら、市内の浸水に対する安全度を更に向上させていきます。

方針④ ゆたかにする

## 8,190 トン

### 1 年間に有効利用した下水汚泥の総量

消化ガスの汚泥焼却炉等への利用等により「下水汚泥有効利用率」は目標を超える 27.3% に向上しました。

数値目標：下水汚泥有効利用率

2018 年度実績/目標 <b>27.3% / 25.0%</b>	2022 年度目標 <b>50%</b>
--------------------------------------	-------------------------



目標以上の達成！



汚泥消化タンク（鳥羽水環境保全センター）

企業債残高削減額（H29-H30）

区分	H29	H30	削減額
水道	1,728 億円	1,663 億円	△65 億円
下水道	3,112 億円	2,893 億円	△219 億円
計	4,840 億円	4,556 億円	△284 億円

方針⑤ させる

## 284 億円

### 企業債残高の削減

組織・業務の見直しや民間活力の導入をはじめ、効率的な事業運営に努めた結果、プランの目標利益を確保し、企業債残高の目標を達成できました。

数値目標：企業債残高

2018 年度実績/目標 <b>4,556 億円 / 4,563 億円</b>	2022 年度目標 <b>4,149 億円</b>
--	------------------------------



目標以上の達成！

## 中期経営プランにおける数値目標の達成状況

区分	通番	指標名	H29実績	H30実績(目標)	達成状況	(R4目標)	
プラン全体	1	事業に対する総合満足度	65.1% (2015年度)	78.5% (70%以上)	○	70%以上	
視点① 京の水をみらいへつなぐ	① つくる	2	異臭(かび臭)のない水達成率	99.1%	100% (100%)	○	100%
		3	浄水施設の耐震化率(※)	51.0%	— (—)	—	76%
		4	配水池の耐震化率	28.1%	28.1% (31.3%)	×	54%
		5	有収率	90.4%	90.7% (90.6%)	○	91.0%
	② はこぶ	6	老朽配水管の解消率	22.5%	27.1% (27.1%)	○	47%
		7	主要管路の耐震適合性管の割合	51.5%	52.8% (52.6%)	○	58%
		8	下水道管路改築・地震対策率	11.4%	14.8% (14.8%)	○	28%
		9	高度処理管理目標水質達成率	100%	100% (100%)	○	100%
	③ きれいにする	10	処理施設の改築更新数	—	累計 13 施設 (累計 13 施設)	○	累計 37 施設
		11	合流式下水道改善率	63.1%	66.2% (66.2%)	○	96%
		12	飲料水の備蓄率	48.5% (2015年度)	62.0% (49.8%)	○	55%
	④ まもる	13	雨水整備率(10年確率降雨対応)	28.0%	28.6% (28.6%)	○	33%
		14	新技術等の調査研究件数	74件 (2013-2017年度)	年間 34 件 (年間 18 件)	○	90件 (2018-2022年度)
	視点② 京の水で「こころをほぐくむ	① こたえる	15	窓口、電話対応のお客さま満足度	58.0% (2015年度)	61.8% (59.4%)	○
16			インターネットを活用したサービスの利用件数	年間 3,246 件	年間 11,703 件 (年間 4,000 件)	○	累計 45,000 件
17			広報活動の認知度	32.7% (2015年度)	37.7% (33.0%)	○	35%
② ゆたかにする		18	琵琶湖疏水記念館来館者数	累計 253 万人	累計 264 万人 (累計 260 万人)	○	累計 310 万人
		19	事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(H16比)	19.3%	24.0% (19.3%)	○	25%
20	汚泥有効利用率	24.5%	27.3% (25.0%)	○	50%		
視点③ 京の水を大切にしよう	① になう	21	技術系資格保持者の割合	29.1%	32.1% (32.0%)	○	40%
		22	職員定数	1,249 人	1,218 人 (1,218 人)	○	1,149 人
	② やささえる	23	下水道の大規模更新に備えた積立金(※)	(未実施)	— (—)	—	50 億円
		24	企業債残高	4,840 億円	4,556 億円 (4,563 億円)	○	4,149 億円

(※)「浄水施設の耐震化率」及び「下水道の大規模更新に備えた積立金」は平成30年度の目標設定がないため評価していません。

平成30年度の取組や経営評価の詳細内容は本冊子

(<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000256578.html>) をご覧ください！



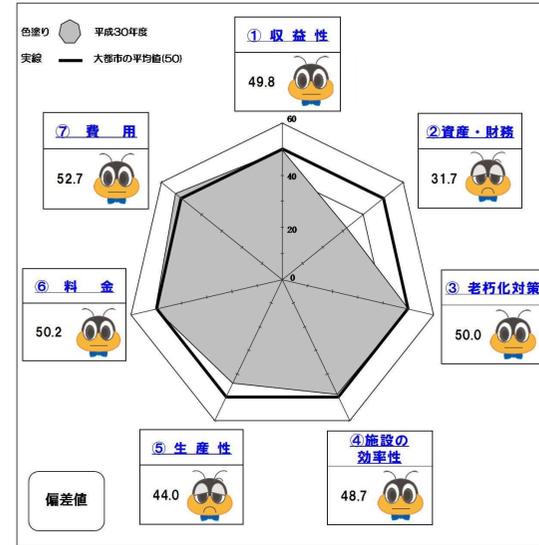
## 大都市比較から見る京都市の特徴

京都市の水道事業・公共下水道事業の特徴を、偏差値による大都市比較により表しています。なお、水道事業及び公共下水道事業は、自然条件や地理的条件をはじめ、施設の設備状況などにより経営環境が左右されるため、比較・分析に当たっては、地域特性や事業背景が異なることを考慮する必要があります。

数値は京都市の偏差値を示しています。

45未満 45以上55未満 55以上

### < 水道事業 >

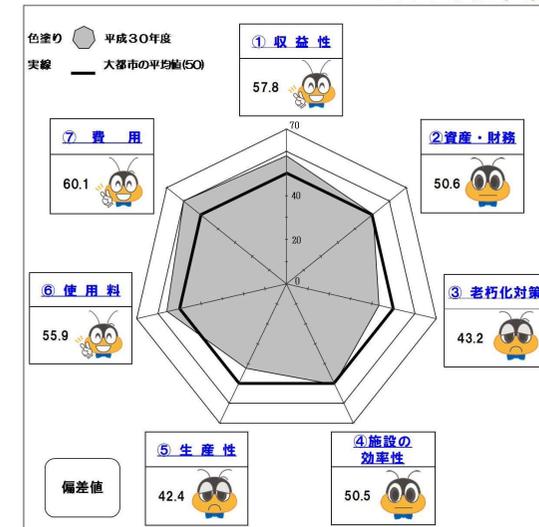


京都市の水道事業は、安全・安心な水道水を供給するために必要な施設の改築更新などの財源について、企業債に依存している割合が高いことから「②資産・財務」が、他の事業者からの水道水の受水の有無(京都市は琵琶湖から原水を取水)などの事業の運営形態の違い等により「⑤生産性」が、それぞれ低くなっています。

また、老朽化した管路の割合が高いことなどにより、他都市と比べ漏水量が多いことから「④施設の効率性」がやや低くなっていますが、配水管更新のスピードアップなどにより「③老朽化対策」は大都市平均値並みとなっています。

このような中、効率的な事業運営に努めることで、少ない「⑦費用」で水を供給することにより、安価な「⑥料金」を維持しており、大都市平均並みの「①収益性」を維持しています。

### < 公共下水道事業 >



京都市の公共下水道事業は、これまでの経営効率化や財政基盤の強化、並びに施設規模の適正化などの取組により「②資産・財務」及び「④施設の効率性」は大都市平均値並みとなっていますが、全国的に課題となっている下水道管路・施設の「③老朽化対策」については、事業開始からの経過年数が大都市平均を上回っていることなどにより低くなっています。

また、他都市と比べ合流式下水道の割合が高く、下水道使用料の対象とならない雨水の流入量が多いことなどにより「⑤生産性」は低くなっています。

このような中、効率的な事業運営に努めることで、少ない「⑦費用」で水を処理することにより、安価な「⑥使用料」を維持しており、「①収益性」は大都市の平均値を上回っています。